

NPO法人フリースクール札幌自由が丘学園 クラウドファンディング
『経済的理由を乗り越えてフリースクールを利用できるよう「授業料補助」を継続したい』
応援メッセージ No.8



北海道に夜間中学をつくる会・札幌遠友塾自主夜間中学 工藤慶一

戦争など様々な理由で学校に十分通えなかった人たちの学ぶ場である札幌遠友塾自主夜間中学の授業が、1990年4月札幌市民会館の会議室を教室に毎週水曜日の夜に始まる。前年10月からボランティアスタッフを募集し、翌年2月から賛助会員を募り、3月末から受講生を募集。100名もの学習者が集う。

受講料は月1500円。2009年春に市立向陵中学が使用可能となり、会場費が大幅に下がり現在は月1000円。開講から28年が経過し、卒業生は392名、現在も72名の人たちが学ぶ。今も全国約200名の賛助会員から年会費が納められ、会員には年3回、近況報告や私たちの新聞である「遠友だより」をお送りしている。

開講時、中学1年の不登校の若い人2名が遠友塾に通ってきていたこともあり、いつの間にか、自由が丘学園の亀貝さんや漂流教室の相馬さんと親密な関係ができ、今日に至っている。今はパソコンとインターネットがあり、クラウドファンディングという聞きなれない仕組みができていて、上記の賛助会員制度の代わりにしてくれる。昨年4月開講した岡山自主夜間中学はお金に困り、この制度を活用し、目標金額を達成したという明るいニュースも入ってくるようになった。

自由が丘学園や漂流教室のスタッフの献身的な活動（私の孫もお世話になっている）を見るにつけ、フリースクールは今の社会の中で極めて大切な役割を果たしているように思う。この活動を更にすすめるために、安定的な経済基盤の構築が必要である。行政への働きかけと地道な会員獲得の取組と共に、経済的に困難な方たちへの授業料減額を実行する原資を工夫していかなければならない。この為に新たにクラウドファンディング制度実施をすることである。数多くの方々の応援を切にお願いしたい。